



行谷小学校 学校だより

日本一のトキの学校

# トキっ子

第8号 [11月号]

令和元年11月15日発行



シリーズ「新しい時代の幕開け」

## ノーベル賞も夢じゃない！「ノーベル化学賞」吉野 彰さん



校長 笠井 猛雄



11月の全校朝会で「ノーベル賞」の話をしました。

子どもたちに尋ねました。

「ノーベル賞を考えたこの人（左写真）は誰でしょう？」

5年生の子が手を挙げました。

「アルフレッド・ノーベル」

「ノーベル」という解答は予測していましたが、「アルフレッド」というファースト・ネームまで知っているなんて、びっくりしました。

答えてくれた5年生の子へ全校のみんなで拍手を送りました。

ストックホルムで生まれたスウェーデン人のアルフレッド・ノーベルはダイナマイトを発明し、世界中で事業を展開しました。

しかし、ノーベルのことを「死の商人」などと批判する声がありました。

自分の死後の評価を気にするようになったノーベルは、「人類のために貢献した人物に、国籍の差別なく、毎年、自分の財産の大部分をあてた賞金を授与する」ことを遺言状に署名しました。

ノーベルの死後、遺言状を受け継いだ「ノーベル財団」が、毎年、物理学や化学などの「6分野」から「ノーベル賞」を選考し、ノーベルの命日である12月10日にストックホルムで受賞式を行っています。（平和賞の受賞式はノルウェーのオスロ）

子どもたちに、「ノーベル化学賞」を受賞した吉野 彰さんを紹介しました。

名前を知っていた子はいないようでしたが、「何を研究してノーベル賞を取ったのでしょうか？」と尋ねると、3年生から「リチウムイオン電池」という声が上がりました。（3年生の子が知っているなんてびっくりです。）

吉野さんはリチウムイオン電池を開発し、モバイル社会の夜明けをもたらし、人類の発展に貢献しました。

今や、リチウムイオン電池は、私たちの生活になくてはならない存在です。

ノートパソコン、カメラ、スマートフォンをはじめ、災害時における新幹線の予備電源や航空機のシステム電源などにも使われています。



吉野 彰さん

「ノーベル賞」受賞の会見で、吉野さんが「化学への興味の原点」として挙げたのが、一冊の本との出会いでした。

吉野さんが化学に興味をもったきっかけは、1冊の本でした。

「ロウソクの科学」という本です。

小学生の時、先生に勧められて読んだそうです。

令和はみなさんの時代です。

「ノーベル賞」も夢ではありません。

吉野さんのように、好きな本を見つけてたくさん読んでください。

それが、みなさんの将来を決めるきっかけになるかもしれません。



子どもたちは果てしない可能性を秘めています。

「オリンピック」と同様、「ノーベル賞」も夢ではありません。

「ノーベル化学賞」の原点は、先生に勧められた1冊の本でした。

教師や親のさりげない助言や指導は、子どもたちの将来につながる可能性を秘めています。

子どもたちに学校の図書室にある1冊の本（左図）を紹介しました。

「ボーっとしない生き方」を子どもたちに期待します。